令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390900330		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F		
所在地	〒021-0012 岩手県一関市宮前町14-9		
自己評価作成日	令和7年1月31日	評価結果市町村受理日	令和7年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年度はプランターで野菜を育てたり、制作活動などで季節を感じていただいています。利用者様には日々の生活の中で役割や楽しみを持ち、生き生きとした生活が送れるように四季折々の行事やレクリエーション活動を職員ともに楽しみながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、一関市役所と県道14号線を挟んで北側に位置する2ユニット（2階建）のグループホームである。旧来からの住宅地にあり、東隣にはマンションが1棟ある他、周辺には商業施設、コンビニエンスストア、医療機関、保育所、交番、神社などがあり、社会資源に恵まれた環境下にある。事業所では、開設当初から「思いや願いを大切にします」「暮らしを支え、安心をお届けします」などの運営理念を基本に利用者支援に努めている。コロナ禍やその後に引き続く感染対策もあり、地域とのつながりや運営推進会議の集合開催が中断している。「暮らしやすい地域を共に考えていきます」とする運営理念に基づき、運営推進委員の活用や事業所の行事などを通じ、地域との相互交流や相互支援を図りながら、地域に開かれた事業所として歩んでいくことが期待される。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 ６ 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所前の目につきやすい廊下の壁に理念を提示しており、それを元に支援に繋げている。	運営理念は、開設時に代表と管理者が考案したもので、事務室向かいの廊下壁に掲示し、パンフレットにも記載している。三つの目標のうち、「『思い』や『願い』を大切にします」を実践するため、日々の介護やお茶の時間に利用者に寄り添うことを心がけている。「暮らしやすい地域を共に考えていきます」は今後の課題としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、毎月広報誌を届けていただいている。コロナウイルスやインフルエンザ感染拡大防止の為、今年度も交流は出来ていないが、ご近所の方とお会いした時などは挨拶を交わしている。	町内会に加入し、地元区長が宮前町内会と市の広報紙を届けてくれる。東側に1棟マンションがある以外は旧来からの住宅が多く、近隣にはコンビニエンスストア、病院、交番、神社、保育所などもある。コロナ禍以前の地元やボランティアなどとの交流事業は途切れたままとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、地域の方に向けて特に何も出来ていない状況である。今後何かできればと思っているが、実践には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大防止の為、開催は行っておらず、ホームの状況報告を書面にてお知らせや公表を行っている。	今年度の運営推進会議は、法人の感染予防方針により集合開催を見合わせ、委員に資料を送付する書面開催として実施している。事業所作成の資料を送付するのみで、意見や要望、各委員からの情報収集は現状で行われていない。管理者は、各委員の協力や情報収集の必要性に照らし、今後取り組みたいとしている。	事業所力向上や地域とのつながりを強化していくため、運営推進委員の追加委嘱や感染防止に配慮した集合形式の会議開催が望まれます。書面開催の場合でも、委員の意見や要望などを集約する取り組みが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話、メール、FAX等にて情報を頂いている。不明な点は担当課へ連絡又は足を運び、協力を頂いている。	運営推進会議委員には、市役所担当職員に委員を委嘱している。介護認定の更新手続きなどの際には、介護支援専門員が窓口に出向き、顔の見える関係づくりに努めている。生活保護担当者との関係も強化できている。なお、管理者は、地域包括支援センター職員との連携や活用の重要性も理解している。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所内の研修や、日々の会話の中で確認し合い、身体拘束のないケアに努めている。	身体拘束防止の委員会は、職員を委員として開催している。インターネット情報などの資料を活用し、職員が講師となって正しい理解に努めている。スピーチロックについては、日常的に気になる場合は両ユニットとも職員間で注意喚起を行っているが、必要に応じて管理者が指導することもある。日中は玄関の施錠を行わず、19時から翌朝4時30分の間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を閲覧し、職員個々で学ぶ機会を持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料を閲覧し、職員個々で学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様への説明後、不明点などを確認し、内容を確認したうえでの契約手続きを行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書の発送時に、不明点があれば気楽に連絡を頂けるように記載している。意見等を言い出しにくい場合も考えられる為、玄関にご意見箱を設置している。	運営に関して、家族や利用者からの要望は殆どなく、ご意見箱も活用されていない。遠隔地居住の家族が多く、介護計画見直しの際に意向や要望を伺っている。入居を「入院」と思っている利用者から「退院いつなの？外出したい」などと話されることもあるとしている。家族と話をしたいとの利用者の希望には、電話で声を聞けるよう支援している。	

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に上がった意見に関して、具体化をするように心がけている。疑問に関しては法人総務へ相談し、その後開示するようにしている。	両ユニット共に職員から業務の中で情報交換や利用者支援の提案がある。1階浴室の除湿機やポットが壊れ購入した例もある。福利厚生の要望への対応は難しい面もあるとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や、自信ややりがいを持てるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な資格取得を促すとともに、研修を視聴して学ぶ機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上の為、外部研修へ受講を促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用様と直接面接し困っていること、不安なこと意向などを取り入れ、安心して生活が送れるように、寄り添う介護に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望や要望を視聴しながら、ご利用者様がどんな生活を送りたいか意向も聞きながら、ご家族様との関係を築いていき、サービスの提案をしていく。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査・プラン立案では、ご利用者様が最も支援してほしい事を、サービスとして導入している。支援方法については、生活過程の中でその方の変化や状況に合わせて対応方法を変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ、広告チラシを使用した箱作り、テーブル拭きなど、その人が出来ることを一緒に行い、本人の生活の意欲を高めるように役割をもって生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子や出来事を毎日記入し、1か月分を月初めに家族に送付している。その他面会時や電話連絡にて状態の報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は玄関ドアにて窓越し面会を行っていた。その際聞き取れないなど会話が難しい場合は、電話を活用することもある。現在はコロナウイルスやインフルエンザの感染拡大防止の為、直接会っての面会は基本的禁止している。	両ユニットとも利用者は合併前の町村出身者が大半を占め、仙台や東京などの遠隔地に居住する家族が多く、平均的な面会頻度は3ヵ月に1回、多い場合でも月1回程度となっている。コロナ禍を挟み馴染みの人との面会や馴染みの場所の訪問は、難しい状況にある。週1回来所し健康管理を行う看護師や隔月毎に来所する訪問理容師が、新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を考え、テーブルや席に配慮している。職員が間に入りながら、ご利用者様同士関りを持って頂き、過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了しても、入院中の状態を伺いながら、空き次第再入居できるようご家族や医療スタッフと相談したり、他施設の情報提供をしている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの際に、BS法を用いてご本人の意向を考え検討している。居室担当を中心に日々の様子や気づきを大切にし、本人の思いを読み取り把握に努めている。	運営理念の一つに「『思い』や『願い』を大切にします」と掲げ、両ユニットではそれぞれ居室担当者を決め、把握した思いや意向などは、担当者から介護支援専門員へ伝えている。2階のユニットではブレーンストーミングの方式で、利用者の気になる点などをテーマとして思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査の際に、ご本人様やご家族様から生活歴や暮らし方、趣味などを伺い、把握に努めてケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表や記録を活用し、把握に努めている。また、日々の様子や変化について意見を出し合い、介護計画に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意見、要望を取り入れ、介護計画を作成している。カンファレンスでは、BS法を使い、ご本人様の日々の様子や変化について意見を出し合い、介護計画に反映させている。	入居後の介護計画の見直しは6ヵ月毎としている。毎月のモニタリングを居室担当者が行い、このモニタリングに基づき3ヵ月毎に職員全員が集まってカンファレンスを行っている。カンファレンスでは、介護計画に位置付けられているサービス内容ごとに丁寧に話し合われ、話し合いの内容も記録として残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に毎日記録し、介護計画の見直しに活かしている。カンファレンスや申し送りを利用し、職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様からの希望にて、訪問診療や訪問理容サービスを利用している。かかりつけ医への通院支援や書類手続き、必要な物品購入等の支援も行っている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の訪問美容室に来て頂いており、希望者が利用している。誕生会や行事の際には飲食店、お菓子屋を利用し、楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り入居前からのかかりつけ医に受診し、基本的に職員が同行しており、受診後にはご家族様への報告や相談を行っている。	利用者は、入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。月１回の受診に仙台在住の家族が同行する利用者がいるものの、多くの家族の居住地が遠隔地や事業所から遠い地域にあるため、受診には職員が対応している。投薬の変更があった際は、家族に電話で連絡している。皮膚疾患の1名が訪問診療を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回同法人内の訪問看護師が来所しており、健康管理を行っている。何か変化があった時には相談をし、早期に対応出来るように看護師と連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、くらしのシートを病院にて提出し、入院期間中も病院やご家族様から定期的に状況を聞いて、状態の把握に努めている。病院のソーシャルワーカーやご家族様との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化や終末期に向けての方針を説明し理解を頂いている。ご本人様に状態変化が見られた際にはご家族様及び主治医に報告を行い、場合によっては同法人の施設の協力を得るなどして支援していきたいと考えている。	事業所での看取り対応はこれまで無いものの、入居利用者が重度化し不意の対応が想定され、職員の対応力の向上が必要になってきている。入浴介助時に浴槽を跨ぐことが難しくなったり、医療管理が必要な状態となった場合には、家族や主治医と相談しながら特養などの施設の紹介等を支援している。	

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員に周知、事務所にも提示している。同法人内看護師と連携し、24時間相談できる体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。また、地震や災害に備えて食料や飲料水の確保をしている。	春には火災避難訓練、秋には日中に夜間想定避難訓練を実施し、訓練には民間の委託業者が立ち合っている。ハザードマップ上で、早期の立ち退き避難が必要な区域に指定されており、想定訓練の追加や近隣住民との協力体制の構築など、管理者は新たな取り組みの必要性が必要としている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの目線に合わせ、声の大きさや言葉遣いに配慮しながら、傾聴の姿勢にて声掛けをしている。また、ご利用者様に不安等おこさないように心掛けている。	利用者への声掛けは、主に下の名前か珍しい苗字の利用者には苗字に「さん」付けで行っている。異性介助や相性など配慮が必要な場合には、利用者の意向を尊重している。雑巾縫いや編み物、書道などの趣味や若いころから手掛けていた手仕事を今も行っている利用者が多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望や思いを傾聴し、楽しく生活できるように心がけている。お声掛けや対応に工夫しながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活習慣等に配慮し、その方の生活ペースを大切にしている。できるだけご利用様が出来る事、したい事を行っていただけるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、洗顔、髭剃りなど、必要に応じてお声掛けや介助を行っている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きなどお手伝いを頂くなど、食事の準備を職員と一緒に行っている。メニューは決まっているが、苦手な食材などがある場合は、他食材に代替えするなどの対応を行っている。	主菜、副菜は、3食とも前日に系列事業所からチルド処理のものが届き、事業所では汁物とご飯を作っている。季節の行事に合わせた行事食も届くが、敬老会のご馳走は事業所独自の献立としている。利用者は日常的にテーブル拭きを手伝っているほか、手作りおやつで夏のかき氷や、はんぺんを入れたお好み焼きを作り、また郷土食の餅料理の代わりにずんだ里芋を楽しんでいる。季節の梅干しや干柿づくりも利用者が職員と一緒に行っている。その楽しそうな利用者の様子は「お便り」に掲載され家族に届けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用様一人ひとりにあった食事量や硬さ・大きさ等を配慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きのお声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。義歯使用者には毎日洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。立ち上がりや、落ち着きがない場合も一つのサインとして受け入れ誘導を行っている。	両ユニットとも布パンツ使用、リハビリパンツ使用、パット併用など、利用者の排泄状況に応じて対応している。夜間にオムツを使用する利用者は1階1名と2階2名、居室でポータブルトイレを使用する利用者は両ユニットとも1名となっている。1階では複数介助の利用者が1名いるが、できるだけ日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記録し、排便のチェックを行っている。便の状態や量のチェックを行い、必要に応じて整腸剤や下剤を、医師または看護師に相談し服薬している。毎朝牛乳を提供している。		

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を支援している。入浴前にバイタル測定を行い、その日の体調・気分・状態に沿った対応をしている。入浴日は大体決まってはいるが、その日の入浴が難しい場合は、翌日などに交換するなど対応している。	入浴は、両ユニットとも日曜日以外の午後1時半から3時半頃に2人から3人ずつとし、冬至の柚子湯や5月の菖蒲湯などで季節感を楽しんでいる。誘導から脱衣、入浴、着衣まで職員がマンツーマンで支援し、湯温や長湯など好みに合せた入浴支援を行っている。浴槽をまたげない利用者はシャワー浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後と昼食後休息の時間をもうけて、ベッドで静養して頂いている。休まれる様子がない方には、リビングで過ごしていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を確認して、指示された内容で服薬管理を行っている。服薬の際には職員二人で必ず確認を行い服用している。内服薬に変更がある場合には、連絡ノートや口頭で職員に説明し、定期訪問の看護師にも報告している。処方箋等で副作用についても把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみや新聞たたみなどのお手伝いをして頂いている。季節ごとに作品を作成している。テレビを見ながらの体操は日課となっており、プランターで野菜作りを行うこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ感染やインフルエンザ感染拡大予防の為、外出支援は行えていない。受診の帰り道に景色を見ていただくことがある。今後季節を感じて頂けるように、お花見や紅葉ドライブに行けるように支援していく。	各ユニット毎に、事業所にある車2台を利用して春には花見、秋には紅葉狩りのドライブに出かけている。事業所南側の駐車場が広くゆったりとしたスペースが確保され、定期的な外気浴、お茶会などのミニ外出や近隣への散歩などが出来る環境にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理しているご利用者様はいません。ご本人様の希望に応じて何か購入する際は、立替えて後でご家族様より頂いている。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 認知症高齢者グループホーム 金木犀 2F

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望に応じて、ご家族様に電話をかけお話しされるご利用者様もおります。遠方の方から手紙が来ることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは南向きで日当たりがよく外を眺めやすい窓で、ご利用者様もよく外を眺めている。壁には季節を感じられるようにご利用者様と一緒に作った作品を飾っている。	両ユニットとも白を基調とした同じ設計となっている。天気の良い日の日中は、明るい陽射しがホールに入り、組み合わせを工夫できるテーブルを上手に活用している。ひな祭りを意識した作品が多く飾られ、騒音もなく廊下も広く、居室やトイレへの移動空間もゆったりとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様と過ごせるように、席を工夫している。同じテーブルの方と会話されたり、テレビを見て過ごしている。場合によっては席を変えたりもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や、自分で作成した作品等を飾っている。居室にテレビを設置して観たり、ぬいぐるみを置いたり自由に過ごしている。	エアコン、ベッド、大きなクローゼット、入口側に洗面台が備付けられている。入口ドアには、どの居室にも高齢者に好まれる和風の格子模様の装飾が施され、落ち着いた演出がなされている。介護用品や夏物冬物の衣類も十分に収納できる大きなクロ―ゼットがあり、居室内はスッキリと使用でき、ホール同様明るく清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯たたみやテーブル拭き等を行い、自立した生活が送れるように、その方に合った工夫、支援を行っている。 会話が可能なご利用者と隣同士にし、会話が出来るように配慮している。		